

2020年3月期 決算説明資料



**2020年5月22日
大建工業株式会社
(証券コード：7905)**

目 次

1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響 及び 対応状況

■ 新型コロナウイルス感染拡大の影響 及び 対応状況	4
----------------------------	---

2. 2020年3月期 業績

■ 2019年度 市場環境（新型コロナウイルス影響以外）	6
■ 2020年3月期 業績	7
■ 2020年3月期 セグメント別業績	8
■ 2020年3月期 営業利益増減要因 実績	9
■ 2020年3月期 市場別 売上実績	10
■ 2020年3月期 市場別 売上実績 セグメント別増減	11

3. 2021年3月期 業績予想

■ 2021年3月期 業績予想の発表について	13
------------------------	----

4. 今後の対応

■ 主な対応①（リスク認識、リスクへの対応）	15
■ 主な対応②（ガバナンス強化、DAIKENの強みの再確認と社会課題解決の追求）	16

5. 財務情報

■ 2020年3月期 連結貸借対照表	18
■ 2020年3月期 連結損益計算書	19
■ 2020年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書	20

新型コロナウイルス感染拡大の影響 及び 対応状況

新型コロナウイルス感染拡大の影響 及び 対応状況 (2020年5月18日時点)

<主要拠点における稼働状況>

「新型コロナウイルス対策本部（本部長：社長執行役員）による全社一元的な管理体制を構築
従業員の健康管理、感染拡大防止を徹底しながら、可能な限り事業活動を継続

◆国内生産拠点

岡山工場、高萩工場、三重工場、井波工場、他グループ工場 一部生産調整しながら稼働継続

◆海外生産拠点

マレーシア：MDF2工場 人員を半数に減らし稼働継続

ニュージーランド：MDF2工場 3/23～4/28 政府外出禁止令で生産停止、現在は稼働再開

北米：カナダ単板工場 感染防止策を講じ稼働継続、米国LVL工場 稼働率を6割抑え継続

中国：春節後から2/17までは停止、以降再開、稼働率を3割程度抑え継続

インドネシア：レバラン休暇明けの6月初旬に稼働再開予定

◆業務拠点

東京、大阪等 業務系人員は、4月1日以降原則、ITを活用した在宅勤務を徹底



◆4月時点の売上・受注減は限定的。しかしながら、今後は急激な需要減が見込まれるため、可能な限り、需要動向に対して、柔軟に対応できるよう生産体制における準備を進める

<手元流動性の確保>

◆2020年3月末 現金預金残高168億円+コミットメントライン50億円（未使用）を確保

◆2020年4月～ 不確実性に備え、主力銀行からの借入等により手元流動性のさらなる積み増し

2020年3月期

業績

2019年度 市場環境（新型コロナウイルス影響以外）

<住宅市場>

- ◆2019年度の新設住宅着工戸数は、△7.3%。上半期までは持家、分譲戸建が好調に推移するなど、消費増税に伴う駆け込み需要が見られたが、貸家が△14.2%と前年度を下回る状況が続いたことに加え、年度後半かけて持家、分譲戸建も前年比マイナスに転じるなど低調に推移。

<公共・商業建築分野（非住宅分野）>

- ◆技能工不足による労務費高騰などが引き続きあるものの、東京オリンピック・パラリンピック関連工事や首都圏中心の再開発プロジェクトなど建設工事需要は底堅く推移。
- ◆前中期経営計画期間で拡充した施設別の機能建材製品の提案機会も広がった。

<原材料上昇・高止まり、物流費の高騰>

- ◆輸入合板など一部の品目で前年比での上昇は収まりつつあるものの、木材チップ等の原材料、海外でのエネルギー価格の上昇、また物流費の高騰が利益の圧迫要因に。

<海外市況の影響>

- ◆米中貿易摩擦、米によるイラン向け経済制裁などの影響により、MDFのアジアを中心とした海外需要の低迷から市況の悪化が続く。

2020年3月期 業績

- ◆売上高は、MDFの市況悪化により、販売苦戦が続いたものの、ビルダー向け建材の採用増、公共・商業建築向けの材工受注拡大に対して安定供給に努めたこと、注力市場強化に向けたM&Aによる新規連結が寄与し+10.7%の増収となり、通期予想（11/8）を達成。
- ◆営業利益はコストアップに対する合理化・コストダウンに加え、新規連結が寄与し+46.3%の増益。通期予想（11/8）に対しては、北米木質素材事業で原材料価格の上昇の影響が大きく未達。

(単位：百万円)	'19/3期 (実績)	'20/3期 (実績)	前年同期比		'20/3期 (11/8予想)	差
			増減	増減率		
売上高	182,962	202,481	+19,518	+10.7%	202,000	+481
営業利益	5,733	8,384	+2,651	+46.3%	8,700	△316
営業利益率	3.1%	4.1%	+1.0pt	-	4.3%	△0.2pt
経常利益	6,838	9,108	+2,270	+33.2%	9,400	△292
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,402	5,447	+1,045	+23.7%	5,000	+447
1株当たり 当期純利益	174.55円	209.32円	+34.77円	+19.9%	192.12円	+17.20円
配当金	74円	70円	△4円	-	70円	±0
配当性向 (%)	42.4%	33.4%	△9.0pt	-	36.4%	△3.0pt
ROE (%)	7.8%	9.5%	+1.7pt	-	8.5%	+1.0pt

2020年3月期 セグメント別業績

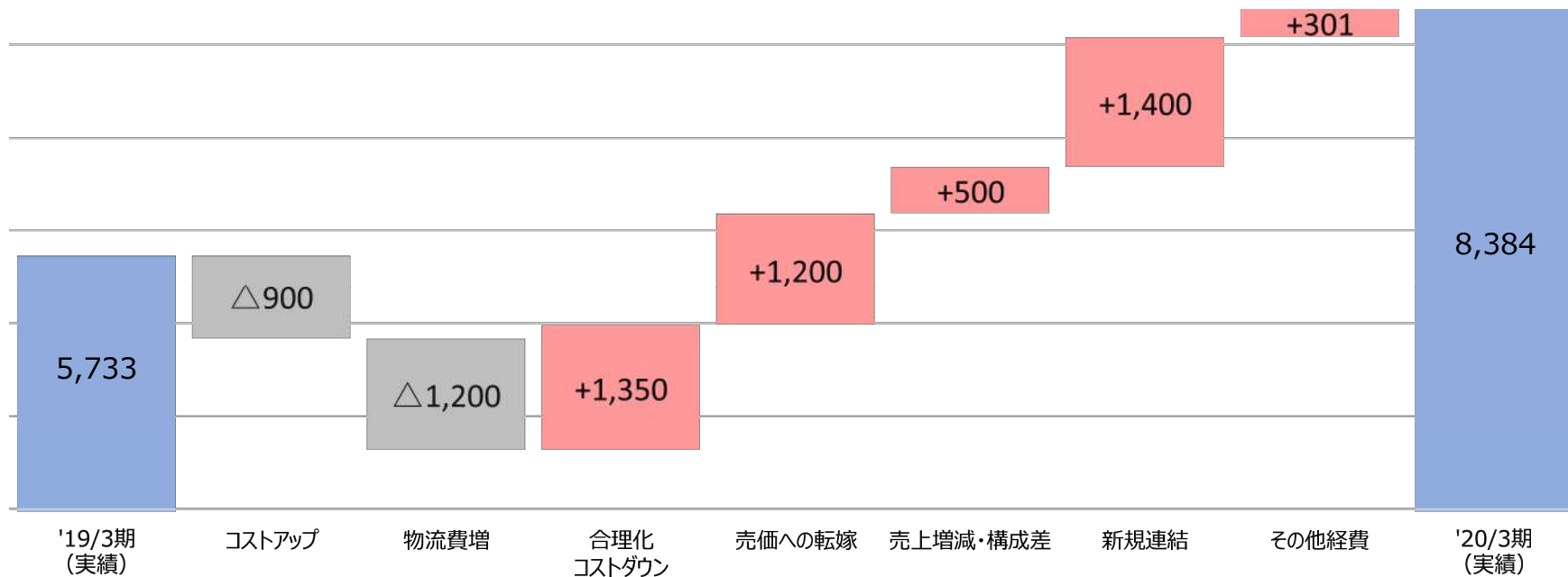
- ◆ 素材事業：MDFの販売苦戦に加え、ダイライトが前年のトラブル影響から回復が遅れるも、
畳おもての拡大、新規連結により増収増益
- ◆ 建材事業：住宅市場、公共・商業建築分野の両市場での床・ドア・音響製品等の受注拡大、
物流費上昇に対する売価転嫁により増収増益
- ◆ エンジニアリング事業：内装工事の受注拡大、リフォーム会社及び無垢床材事業の新規連結により、
増収となるも、労務費高騰等により、前期比で採算性が低下したため減益

(単位：百万円)	'19/3期 (実績)		'20/3期 (実績)					
	売上高	営業利益	売上高	前年同期比		営業利益	前年同期比	
				増減	増減率		増減	増減率
素材事業	61,843	1,132	76,589	+14,745	+23.8%	2,503	+1,371	+121.1%
建材事業	89,485	3,189	94,938	+5,453	+6.1%	4,955	+1,766	+55.4%
エンジニアリング事業	18,063	1,015	21,713	+3,649	+20.2%	613	△402	△39.7%
その他	13,569	395	9,240	△4,329	△31.9%	312	△83	△21.1%
合計	182,962	5,733	202,481	+19,518	+10.7%	8,384	+2,651	46.3%

2020年3月期 営業利益増減要因 実績

- ◆コストアップ：木材チップ等の原材料及びエネルギー価格の上昇、製造固定費増
- ◆物流費増：運賃単価、保管料の上昇
- ◆合理化・コストダウン：各種購買品の見直し、素材事業における海外製造子会社の為替影響
- ◆売価への転嫁：コストアップ及び物流費増に対して建材事業を中心に対応
- ◆売上増減・構成差：MDF及び内装工事の採算性が低下するも、建材事業の増収により純増
- ◆新規連結：2Qから北米木質素材事業、リフォーム会社、3Qから無垢床材事業を新規連結

(単位：百万円)

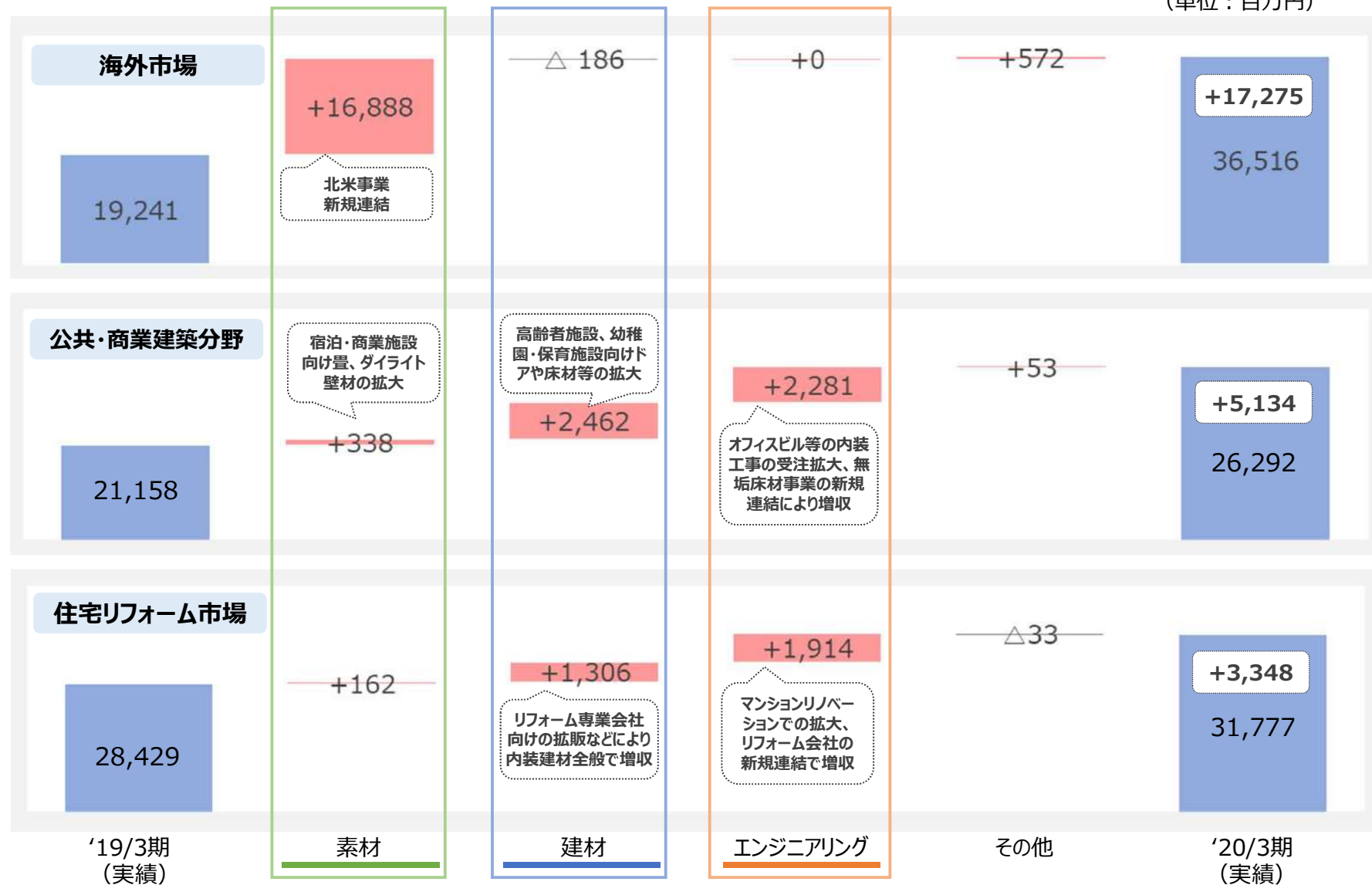


2020年3月期 市場別 売上実績

(単位：百万円) 上段：売上高、下段：構成比	'19/3期 (実績)	'20/3期 (実績)	前年同期比	
			増減	増減率
海外市場	19,241	36,516	+17,275	+89.8%
	10.5%	18.0%	+7.5pt	-
公共・商業建築分野	21,158	26,292	+5,134	+24.3%
	11.6%	13.0%	+1.4pt	-
産業資材分野	35,590	28,483	△7,106	△20.0%
	19.5%	14.1%	△5.4pt	-
住宅リフォーム市場	28,429	31,777	+3,348	+11.8%
	15.5%	15.7%	+0.2pt	-
国内新築住宅市場	77,522	78,630	+1,108	+1.4%
	42.4%	38.8%	△3.6pt	-
その他	1,023	783	△240	△23.5%
	0.5%	0.4%	△0.1pt	-
国内市場	163,721	165,965	+2,244	+1.4%
	89.5%	82.0%	△7.5pt	-
合計	182,962	202,481	+19,518	+10.7%
	100.0%	100.0%	-	-

2020年3月期 市場別 売上実績 セグメント別増減

(単位：百万円)



2021年3月期

業績予想

2021年3月期 業績予想の発表について

2020年5月12日の決算発表にてご案内のとおり、2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、現時点において合理的に算定することが困難であることから、未定としております。今後、新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響を慎重に見極め、業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

今後の対応

主な対応①

<リスク認識>

- ・新型コロナウイルス感染拡大による影響は、長期にわたり、社会・経済活動への影響も極めて大きい。住宅、建築資材の需要を急激に押し下げるリスク要因。
⇒必要な対応を適時・適切に実施していく。



<リスクへの対応>

- ・設備投資計画の凍結 ⇒ 重要性・緊急性の高いもの以外の投資の凍結
- ・費用の総点検・厳選 ⇒ 緊急性、中長期競争力に不可欠なものに厳選
- ・働き方改革の加速 ⇒ 多様な人材が活躍できる柔軟な勤務体系の構築
- ・資産効率化の追求 ⇒ バランスシート、キャッシュ・フロー管理強化
政策保有株式縮減継続

主な対応②

<ガバナンス強化>

- ・社外取締役増員3名体制に（3 / 8名：1 / 3以上に）監督機能強化
- ・グループリスクマネジメントに対する取締役会関与の強化
- ・重要投資案件のモニタリング強化

<DAIKENの強みの再確認と社会課題解決の追求>

- ・不確実性が高まる中、本質的な事業を通じた社会課題解決への貢献を追求
 - ◆「限りある資源の有効活用を通じた持続可能な社会への貢献」
 - ◆「安全・安心・健康・快適な空間づくり」

社会課題・ニーズ

×

DAIKENの強み

=

解決策の提案

財務情報

(参考資料)

2020年3月期 連結貸借対照表 (主な増減要因)

(単位：百万円)	'19/3期 (実績)	'20/3期 (実績)	前年同期比 増減
現金預金	16,865	16,839	△26
売上債権	50,511	42,092	△8,419
たな卸資産	21,363	27,010	+5,647
その他の流動資産	2,810	1,990	△820
流動資産合計	91,553	87,934	△3,619
有形固定資産	41,321	51,426	+10,105
無形固定資産	6,375	14,834	+8,459
投資その他の資産	20,831	16,351	△4,480
資産合計	160,158	170,638	+10,480
仕入債務	30,573	26,846	△3,727
社債・借入金	30,682	43,539	+12,857
その他の流動・固定負債	37,153	37,268	+115
負債合計	98,416	107,662	+9,246
株主資本合計	53,460	57,059	+3,599
純資産合計	61,741	62,975	+1,234
負債・純資産合計	160,158	170,638	+10,480
自己資本比率	36.8%	32.7%	△4.1pt
D/Eレシオ (倍)	0.52	0.79	+0.27

◆売上債権 △8,419

＜主な要因＞	
新規連結	+2,489
前期末休日要因等	△10,908

◆たな卸資産 +5,647

＜主な要因＞	
新規連結	+4,154
製商品在庫その他	+1,493

◆有形固定資産 +10,105

＜主な要因＞	
新規連結	+10,736
取得・建設仮勘定	+4,506
減価償却費	△3,650
為替変動 他	△1,487

◆無形固定資産 +8,459

＜主な要因＞	
新規連結によるのれん増	+9,267

◆社債・借入金 +12,857

＜主な要因＞	
社債発行	+10,000
新規連結による借入金増	+6,547
借入金返済等	△3,690

◆純資産合計 +1,234

＜主な要因＞	
非支配株主持分	+4,360
為替換算調整勘定	△3,317

2020年3月期 連結損益計算書 (営業外収支、特別損益 補足説明)

(単位：百万円)	'19/3期 (実績)	'20/3期 (実績)	前年同期比 増減
売上高	182,962	202,481	+19,518
売上総利益	43,673	51,038	+7,365
販売費及び一般管理費	37,940	42,653	+4,713
営業利益	5,733	8,384	+2,651
営業外収支	+1,105	+724	△381
経常利益	6,838	9,108	+2,270
特別損益	+463	△237	△700
税金等調整前当期純利益	7,301	8,871	+1,570
法人税等合計	2,703	2,359	△344
当期純利益	4,597	6,512	+1,915
非支配株主に帰属する 当期純利益	195	1,064	+869
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,402	5,447	+1,045

◆営業外収支	△381
＜主な要因＞	
支払利息増	△130
為替差損益	△120

◆特別損益	△237
＜主な要因＞	
投資有価証券売却益	+345
訴訟損失引当金繰入額	△184
固定資産除却損	△157
投資有価証券売却損	△148

為替レート (円)	'19/3期 (実績)	'20/3期 (実績)	前年同期比 増減
USD	-	108.29	-
CAD	-	81.57	-
NZD	75.45	70.39	△5.06
MYR	27.18	26.10	△1.08

2020年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書 (主な増減要因)

(単位：百万円)	'19/3期 (実績)	'20/3期 (実績)
営業キャッシュ・フロー	+10,052	+16,807
投資キャッシュ・フロー	△15,079	△17,863
フリーキャッシュ・フロー	△5,027	△1,056
財務キャッシュ・フロー	+11,165	+1,468
現金及び現金同等物の期末残高	16,865	16,839
設備投資額	6,586	5,490
減価償却費	4,134	5,079

◆営業キャッシュ・フロー +16,807

<主な要因>

税金等調整前当期純利益	+8,871
減価償却費	+5,079
のれん償却額	+1,315
売上債権・仕入債務増減	+2,916
法人税等の支払額	△3,185

◆投資キャッシュ・フロー △17,863

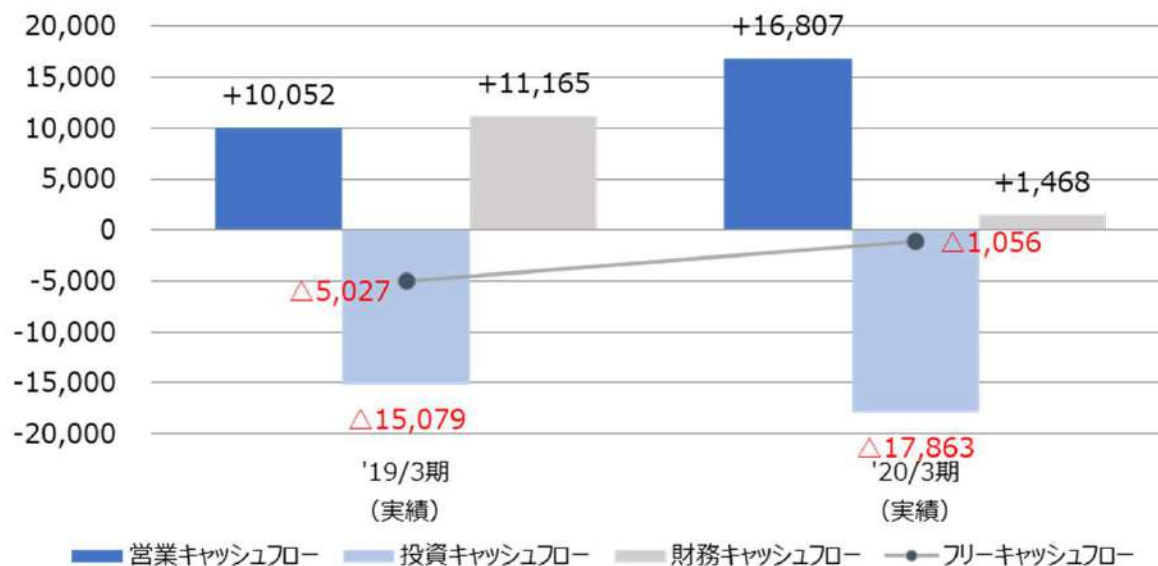
<主な要因>

投資有価証券売却	+1,183
有形固定資産の取得	△5,526
新規連結子会社株式取得	△13,279

◆財務キャッシュ・フロー +1,468

<主な要因>

社債発行・償還	+9,475
借入金減	△5,952
配当金の支払額	△1,873



キノウを超える、ミライへ。

DAIKEN

本資料は情報提供を目的としており、本資料により何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績予想を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその確実性・完全性に関する責任を負いません。
ご利用に関してはご自身の判断にてお願い致します。
本資料に掲載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に対しても当社は責任を負いません。